

■ 明電舎が、大規模な下水道プラント用設備監視制御システムの 64 bit ネイティブ対応で SL-GMS を採用し、迅速な市場投入

2017年6月20日 プレス・リリースより

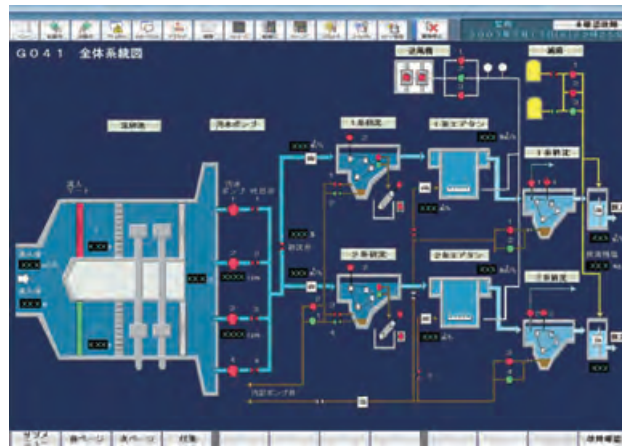
リアルタイム監視制御システムのダイナミック GUI とエディタ技術で業界をリードする SL ジャパンは、環境エンジニアリングで 120 年の伝統と実績を誇る世界インフラ企業の株式会社明電舎が、大規模な下水道プラント用設備監視制御システムの開発で、米 SL 社の 64 bit 版 SL-GMS Developer for .NET ならびに SL-GMS Custom Editor for .NET 製品を採用し、迅速に市場投入したことを発表しました。

上下水道、発電所、電鉄などの社会インフラ構築事業を国内外で展開する明電舎は、水環境分野では日本全国の上下水道の構築と発展に携わってきた実績をもとに、「総合水処理メーカー」として水処理プラントの設計・製造・施工だけでなく、運営・維持管理までをトータルでサポートしています。

明電舎では、上下水道プラント用設備監視制御システムである「MEISVY OPS5000」や「MEISVY VS シリーズ」製品の操作卓に、SL-GMS で開発したグラフィック監視画面と専用の編集環境を組み込んでいますが、今回は従来 Linux で開発されていた大規模な下水道プラント用設備監視制御システムの 64 bit ネイティブ Windows 化において、SL-GMS を採用しました。

☆ プレス・リリース全文はこちら:

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2017/sl_j_press_170620.shtml



(事例より)グラフィック系統図画面例

コンパクトで高速な SL-GMS を、リモートデスクトップサービスでサクサクにシンクライアント運用

監視制御システムの比類なくコンパクトで高対話性のダイナミック GUI を提供する SL-GMS (Microsoft .NET, C++, Java) では、デスクトップ用に開発した同じ SL-GMS アプリケーションを変更することなく、そのまま Web/リモートで高速に運用できます。

去る6月9日に開催した SL-GMS 構築技法セミナーでは、Windows Server 2016 のリモートデスクトップサービスを使い、デスクトップで実演した同じデモ各種を、シンクライアント運用による複数のスマートフォンやタブレット (Android, iPhone, iPad) でご覧いただきました。

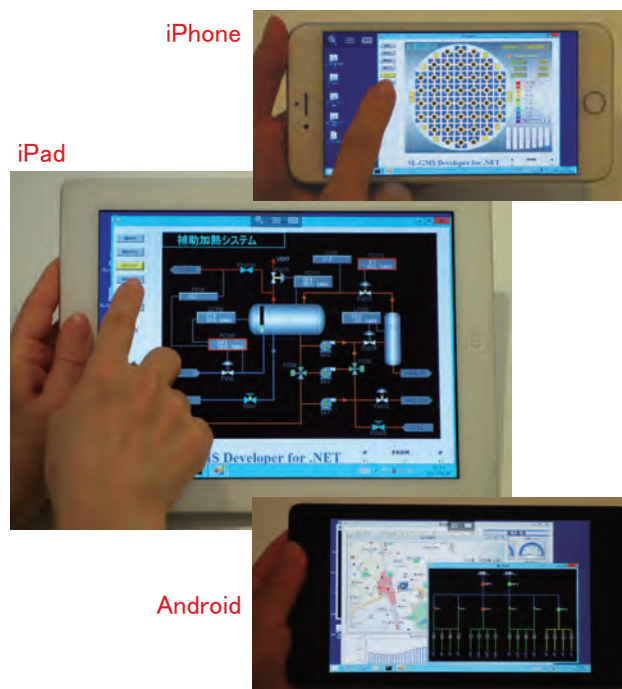
リモートデスクトップサービス (旧 ターミナルサービス) は、サーバ上のデスクトップに Windows パソコンやモバイル端末からシンクライアントで接続し、サーバ側のリソースを使用してアプリケーションを実行できるもので、コンパクトで高速な SL-GMS がその威力を発揮します。

Linux 版 SL-GMS の場合には、Red Hat Enterprise Linux の VNC (Virtual Network Computing) サーバ設定で、同様に運用できます。

☆「コンパクトで高速な SL-GMS を、スマートフォンやタブレットでシンクライアント運用」デモビデオ (1分54秒):

<http://sl-j.co.jp/demovideo/slgms/RemoteDesktopService/RemoteDesktopService.html>

- iPhone で「対話的なプロセス制御」デモ
- iPad で「オーバービュー (小窓) による高速なズーム/パン」デモ
- Android で「対話的な設備監視」デモ
- iPhone で「ダイナミックなプリンキング」デモ



ICT 設備、照明・空調設備、電気設備、生産設備などの「モノの監視 “Monitoring of Things”」は、SL 社が長年得意としてきた専門分野で、SL ソフトウェアはさまざまな「設備監視」での実績を誇っています。

エンタープライズ向けのビジネス・マガジンである Insights Success 誌 June 2016号では、SL 社が「急成長 IoT ソリューション・プロバイダ企業 トップ10」に指名され、「ミッション・クリティカルな指令制御システムのエキスパート」として紹介されています。

RTView では、データベースや運用管理ツールに集約された、複数のデータセンターや事業所、工場、プラント、ビルなどにおける、さまざまな既存の設備監視データを、ポイント&クリック操作の RTView ビルダで容易に一元可視化できます。

☆「IoT データのリアルタイムな可視化と監視ダッシュボード」デモビデオ(0分54秒):
http://sl-j.co.jp/demovideo/ertv/RTV_IoT_data/RTV_IoT_data.html



<http://www.insightssuccess.com/sl-corporation-expert-in-mission-critical-command-control-systems/>



RTView で特定のクエリ実行を制御できる SQL スケジューラ

昨年リリースした RTView バージョンより、SQL スケジューラが実装されています。この機能により、任意の JDBC 対応データベースに接続できる RTView の SQL データ・アダプタで、クエリ時刻をより自由に設定できるようになりました。

たとえば、下記のような「ルール」をいくつか作ります：

- ・Rule1: 毎日 05:00:00～08:00:00 に5分間隔でクエリを実行する。
- ・Rule2: (月)と(金)の 20:00:00～23:59:59 に15秒間隔でクエリを実行する。
- ・Rule3: (月)から(金)の 12:00:00 にクエリを実行。
- ・Rule4: (土)と(日)はクエリを実行しない。
- ・Rule5: (水)の 10:00:00～13:00:00 はクエリを実行しない。

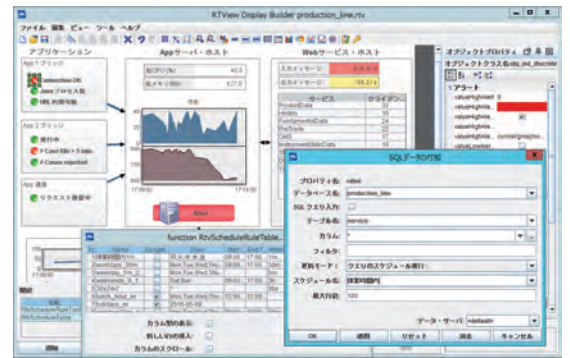
これらルールを組み合わせた、「スケジュール」を定義できます：

- ・Schedule1: Rule1 と Rule4 を組み合わせて、(月)から(金)の 05:00:00～08:00:00 に5分間隔でクエリを実行する。
- ・Schedule2: Rule3 だけを使って、(月)から(金)の 12:00:00 にクエリを実行する。
- ・Schedule3: Rule3 と Rule5 を組み合わせて、(月)(火)(木)(金)の 12:00:00 にクエリを実行する。

ここで定義した各スケジュールの名前を、SQL データ付加(接続)ダイアログで設定することで、SQL スケジューラが利用可能になります。また、SQL データ接続時にはスケジュール名だけでなく、ルール名を直接複数設定することも可能です。

☆RTView 製品について: <http://www.sl-j.co.jp/products/ertv/rtview.shtml>

☆ユーザー様向けの技術資料は、RTView ドキュメンテーション・サイトにあります: <http://www.sl-j.jp/doc/RTView/>



Application Performance 2017 講演レポート

複数のオペレーション/データセンターから集約した異種性能データを、モバイルで監視できるクラウド運用ダッシュボードのカスタム構築

去る9月14日にJPタワーホール&カンファレンス(東京駅)で開催された Application Performance 2017 で、SL ジャパンの代表取締役社長である羽島良重が講演しました。

分散した複数のデータセンター、オペレーションセンター、工場、プラント、ビルなどから集約した、さまざまな既存の「モノの監視」データを、サービスや事業に関連付けてリアルタイムに一元可視化する「性能監視」ダッシュボードの「カスタム構築」について、事例とデモを交えて解説しました。

☆「DCIM(データセンター・インフラ管理)+サービス状況」デモビデオ(1分03秒):

http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv/DCIM_demo_video3/DCIM_demo_video3.html



Real-Time Visibility

年3回発行 2017年9月26日発行 通巻58号



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。